

## 山口県厚狭川工業用水道事業の紹介

### ○ 事業の主旨

美祢市及び旧山陽町は石炭を主とした鉱工業地域として発展してきたところであるが、昭和45年以降相次いで閉山し、残された工場適地や労働力を活用して地域経済の浮揚を図るため、産炭地域振興対策として工業団地の造成、交通網の整備等が進められてきたところであり、進出する企業の用水確保を目的として厚狭川工業用水道事業が開始された。

### ○ 事業の経緯

厚狭川工業用水道は、産炭地域小水系用水開発事業として計画された。

当地区を貫流する厚狭川にはかなりの流量があるが、そのほとんどが権利水であるため、厚狭川の支流日永川（美祢市日永地区）に揚水式的美祢ダムを築造し、厚狭川からポンプアップして貯留し、工業用水を確保するものである。

厚狭川工業用水道には、美祢系統（美祢地区の企業へ給水）、山陽系統（旧山陽町、旧小野田市の企業へ給水）の二系統がある。

美祢系統における建設事業は、昭和47年4月から着工し、昭和48年8月には工事用道路建設工事、同年11月から貯水工事（美祢ダム）に着工し、昭和56年12月に完成した。

また、送・配水管布設及び取水・送水ポンプ場工事は、昭和51年3月に完成し、昭和57年11月から給水を開始した。

山陽系統における建設事業は、昭和47年4月から着手し、取水場・配水池・配水管布設等の工事は、昭和60年3月に完成したが、出水時の高濁度及び海水混入等による高電導度に対応するための調整池（洞ヶ浴溜池）の建設工事については、オイルショックや調整池の用地買収の難航等により見合わせる事となり、産炭地域小水系用水開発事業としては、昭和60年度の完成となり、昭和60年4月から給水を開始した。

その後、洞ヶ浴調整池については、平成7年度着手、平成9年度に完成した。

現在、当工業用水道は、給水開始以来約21～24年が経過しているが、施設の劣化に至るまでの期間は経っていない。しかし、地質上の特性として地層における石

炭層の影響と思われる管体腐食が見られる。また、当施設は一系統で単連結された配置となっていることから、緊急時には断水を余儀なくされる状態にあるため、平成17年度から受水企業への安定給水の確保及び水運用の合理化を図るため、系統間（事業間）の主要幹線を連結（厚東川第二期工水管）、又はループ化することにより事業間の相互運用が出来るように整備を実施しているところである。

今後とも、県産業の発展に寄与する地域として重要基盤である工業用水の安定供給に努めていく。

### ○ ユーザーの概要

（平成19年4月1日現在）

業種	給水件数	契約水量 (m <sup>3</sup> /日)
化学	9	22,490
窯業	2	1,400
石油	1	6,700
その他	5	8,930
合計	17	39,520

### ○ 工業用水道施設の概要

工業用水の水源は、二級河川厚狭川を水源としている。

美祢系統については、厚狭川からポンプアップして美祢ダムに貯留した水を配水池にポンプアップし、自然流下により配水（7,700m<sup>3</sup>/日）、山陽系統については、美祢ダムより日永川を経て厚狭川へ放流した用水を厚狭川下流の山陽潮止堰で取水し、配水池にポンプアップし、自然流下により配水（36,450m<sup>3</sup>/日）している。現在、50,000m<sup>3</sup>/日の給水能力を有している。

美祢系統水道施設延長は約8km、山陽系統水道施設延長は約36km、総延長は約44kmとなっている。

### ○ 事業の特徴

- ・厚東川二期の工水管と接続し、ループ運用を行うことで工業用水の安定供給を図っている。

### ○ 工業用水道概要図

厚東川工業用水道概要図参照